石狩・空知管内でつくられているお米の紹介

作付品種の動向

北海道米は、これまで様々な品種が開発されてきました。昭和63(1988)年に北海道米のイメージを一新する「きらら397」が誕生して以来、冷めてもおいしい「ななつぼし」(平成13(2001)年)、道南生まれの「ふっくりんこ」(平成15(2003)年)、粘りの強い「おぼろづき」(平成17(2005)年)、北海道の自信作「ゆめぴりか」(平成20(2008)年)などが現れました。

管内(※)の米の品種別作付面積割合は、令和5(2023)年においてはななつぼしが45.0%と半分近くを占めており、次いでゆめぴりかが25.0%と全体の1/4を占めています。きらら397、ふっくりんこ、えみまるがそれに続きます。

(※石狩振興局と空知総合振興局の合計。上川管内幌加内町は除く)

〇石狩・空知管内で栽培の多い主食用品種

現在管内で作付が多い主食用品種はななつぼし、ゆめぴりか、きらら397です。また、ふっくりんこ、えみまる、おぼろづきなども栽培されています。

なお、きらら397は飲食店などで、丼物やピラフなど業務用としても広く利用されています。

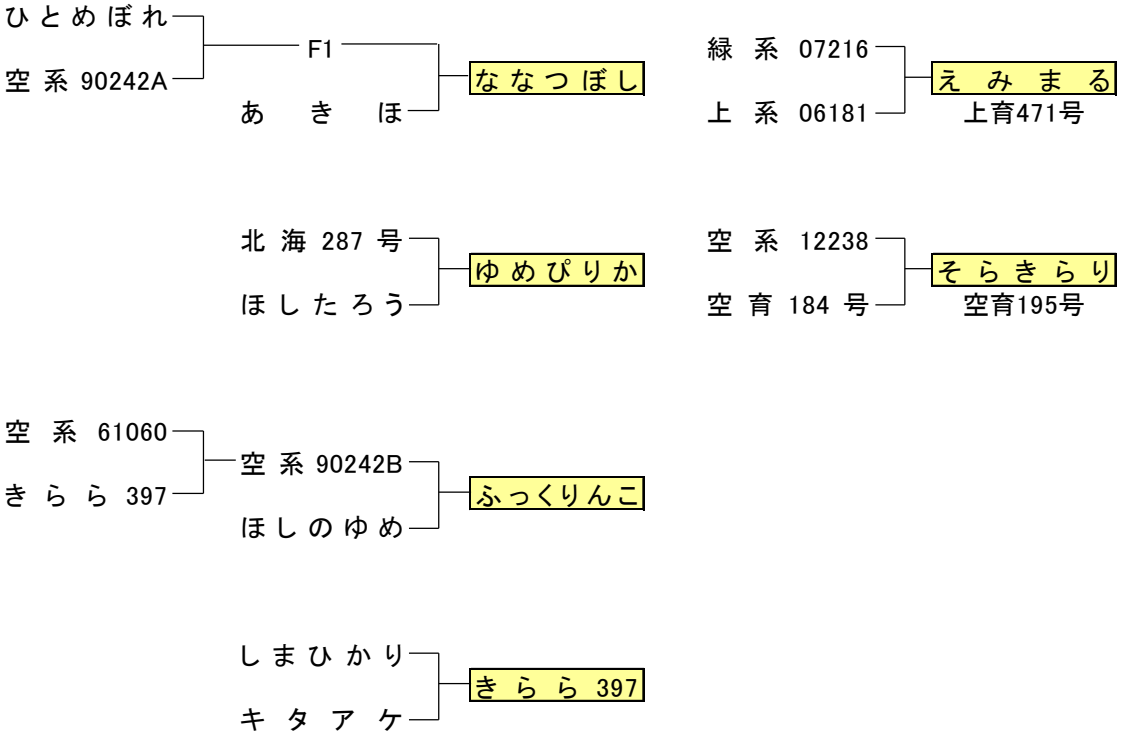
〇水稲直播栽培向けの品種

近年では水稲栽培の省力化を図るために、水田に直接種籾をまく直播栽培が増えており、冷凍ピラフなどに向く加工用品種「大地の星」(平成15(2003)年)や、主食用の「えみまる」(平成30(2018)年)があります。

〇その他の品種

稲の病気であるいもち病に強く、栽培時の農薬低減が期待される主食用米「きたくりん」(平成24(2012)年)、業務用米としての「きらら397」の後継品種「そらゆき」(平成25(2013)年)、「そらきらり」(令和5(2023)年)、また多収の飼料用米「そらゆたか」(平成28(2016)年)などがあります。

主な品種の系譜



資料:「北海道米2024」(お米パンフレット、ホクレン農業協同組合連合会)、北海道農政部調べ
北海道における代表的な6品種について記載。